(2) 新城市立八名小学校

ア　研究の経過

月日	活動内容
４月20日	校内協議①　研究の趣旨及び昨年度までの新城市立八名中学校の研究概要について
４月23日	部会編成 　カリキュラム・マネジメント部会，授業づくり部会，生きる力・基礎基本部会
６月12日	第１回研究協力校連絡会　会場：総合教育センター 　研究の概要，研究方針の説明 　新城地区研究協力校の代表委員と情報交換及び方向性についての共通理解
６月25日	校内協議②　研究概要と現状把握シート，カリキュラム・マネジメント検討用シートについて
７月20日	校内協議③　新城市立八名中学校代表委員による先行研究についての説明
７月23日	校内協議④　現状把握シートについての協議，カリキュラム・マネジメント検討用シートのまとめ（代表委員）
８月20日	校内協議⑤　ＳＷＯＴ分析シートの記入及び，部会ごとの協議
８月28日	第２回研究協力校連絡会（新城地区）　会場：県立新城有教館高等学校 　資質・能力の育成に向けた取組についての協議，授業参観，校内見学
10月８日	名古屋大学教授を招いての授業研究（５年竹組「体育」）
10月30日	第３回研究協力校連絡会（新城地区）　会場：新城市立八名中学校 　各校の資質・能力の育成に向けた実践についての協議，発表会資料について検討
11月20日	第４回研究協力校連絡会　会場：総合教育センター 　発表会に向けてのリハーサル，本年度の研究のまとめについて（研究紀要）
11月27日	第60回総合教育センター研究発表会（中間報告）
２月16日	第５回研究協力校連絡会　会場：総合教育センター 　本年度のまとめと次年度への取組について
２月末日	グランドデザイン策定

イ　過程で見えてきたこと

研究１年目は，カリキュラム・マネジメント部会，授業づくり部会，生きる力・基礎基本部会の三つの部会を編成し，必要に応じてグループ協議を行いながら研究を進めてきた。

現状把握シートから，本校の子どもには，「素直で，真面目に与えられた仕事や課題に取り組む」「優しく穏やか」「学習意欲が高い」という強みがある反面，「指示待ちの子が多く，自分で行動できない」「深く考える力が弱い」「教師に頼りすぎる」という弱みが明らかになった。したがって，強みを生かしながらこれらの弱みを克服し，本校の教育目標である「心豊かでたくましく生きる八名っ子の育成」にせまるために，今の本校の子どもに身に付けさせたい資質・能力を「自分で考え，みんなで深める力」と設定した。

ＳＷＯＴ分析シートにおいては，本校の外部環境及び，内部環境が明らかになり，現状把握シートで認識した子どもの強み，弱みとの関わりやつながりが見えてきた。例えば，外部環境のプラス的要因の一つである「地域・保護者が協力的で，子どもへの関心が高い」という事項は，「学習意欲が高い」という強みの背景ともなるが，「指示待ちの子が多く，自分で行動できない」という子どもの弱みを生み出しているとも言える。

カリキュラム・マネジメント検討用シートにおいては，本校の実践についての課題が見えてきた。課題として多く挙がってきたのは，カリキュラムの評価と改善に関わるものである。特に授業の評価の仕方や評価を指導にどう活用するかについての問題点が目立った。その結果を受け，全教職員でカリキュラム・マネジメント実行策対策シートを用いて話し合い，研究推進委員会にて，改善点として

「事後に生かせる授業・行事のメモの共有」「事後に生かせる評価方法の統一」「対話的な学びの姿を視点とした授業研究」の３点を挙げた。

ウ　「社会に開かれた教育課程」を実現するための，資質・能力を意識した実践

(ｱ) 八名っ子トーク

八名っ子トークは，週２回，朝のモーニングタイムという時間に行っている。この活動では，身に付けさせたい資質・能力に直結する「自分で考える力」「友達の話を自分の考えと比べて聞く力」「自分の考えを進んで話す態度」「友達と関わりながら話す力」などの育成を目指している。具体的な手だてとして「子どもにとって身近で，興味・関心が深い事柄，または経験のある事柄をトークテーマとして取り上げる」「全員で話し合いをする」「多くの子どもが関わり合って発言ができるように，教師が必要に応じて助言する」「机はコの字型にし，子ども同士が顔を見て話をする」などを意識して，活動を進めた。

(ｲ) １年算数科「くらべっこしよう」

単元「ながさくらべ」の学習において，対話活動を促進するために，ペア，全体での対話のそれぞれの場面を設定した。誰のテープがいちばん長いのかを調べて，チャンピオンを決める場面で，全体での対話を行った。見た目では判断できない２本のテープに子どもたちはとまどっていた。教師の「離れているから比べられない」とゆさぶりをかける言葉によって，子どもたちがどうしたら離れているテープを比較できるかを考え始めた。

教材や活動方法を工夫し，対話場面を多く設定したことで，子どもが「知りたい」「調べたい」という気持ちをもち，課題解決に向けて積極的に対話活動に取り組み，よりよい解決方法に気付いた。

(ｳ) ５年体育科「パスをつなぐ，心をつなぐ，チームでつなぐプレルボール」

ネット型ゲーム「プレルボール」の学習において，パスをつなぐ楽しさを味わいながら，自分の課題とチームの課題に気付き，伝え合い，試しながら，みんなで課題を解決していくことを目指した。

チームでの対話活動で，自分の考えをタイミングよく友達に伝えられない子どもには，教師が伝え方をアドバイスし，対話を促進するように働きかけた。学習が進むにつれ，子どもたちは「勝ちたい」「うまくなりたい」という気持ちが高まり，練習中や対戦中に互いにアドバイスし合う様子が見られた（**写真**）。ふりかえりタイムでは，対戦相手を賞賛したり，次時の課題をどうするかを議論したりする姿も見られた。また，友達と対話をする中で課題が解決に向かっていることを自覚し，満足感を感じている子もいた。

【写真　練習方法について対話する子ども】

エ　成果と今後に向けての見通し

今年度，さまざまな教育活動の中に「対話活動」を取り入れることに心がけた。結果，子どもたちが対話活動に慣れ，伝え方を少しずつ覚え，友達と対話することを楽しむ姿が見られた。現在，今年度の実践の中から見えてきたものを踏まえてグランドデザインの策定に取り組んでいる。今後は，グランドデザインに示される本校の子どもたちに身に付けさせたい資質・能力やそれらを実現するための手だてなどについて，教職員，子ども，保護者，地域の方と共有できるようにしたいと考えている。さらに，教科等横断的な視点で，授業，行事，その他の活動等を通して，身に付けさせたい資質・能力の育成を意識した実践を重ねていきたい。そして，資質・能力の育成という視点からの社会との連携を意識した取組や，「主体的・対話的な学び」という目標を共有した新城市立八名中学校，県立新城有教館高等学校との連携について，今後も全教職員で共通理解を図り，協力して進めていきたい。